

# 同友

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

# やまがた



山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた



## 謹賀新年

### 2017年 新年のご挨拶

#### 第13回経営研究集会

基調講演 感動のオンリーワン企業を目指して！  
～人の心に届くサービスで足元に笑顔を届ける～

#### 中同協第5回人を生かす経営全国交流会in千葉

人を生かす企業が地域の未来をひらく  
～10年ビジョンを持ち、「労使見解」の実践を～

山形同友会！  
未来へ向けて、  
新たに！！  
より地域に  
必要な存在へ

2016年度スローガン

# 2017年 新年のご挨拶

山形県中小企業家同友会  
代表理事 西塔 秀幸



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年の世界経済は、イギリスのEU離脱やアメリカ大統領選挙でのドナルド・トランプ氏の勝利と、どちらもおおかたの予想に反した結果でした。

特にトランプ次期大統領が今後どのような政策を提案するのかは、私たち日本の中小企業にも影響することが予想され、注視していく必要があるのではと感じています。

日本経済ではアベノミクスが掲げられ4年になり、大企業は3年連続で史上最高益をあげる一方、地方や中小企業にとっては「消費低迷」、「社員の不足」、「熟練技術者の確保難」など厳しい状況が多々見受けられます。

このような中、山形同友会ではここ数年で行政や金融機関、教育研究機関などとの連携協力が広がりつつあり、中小企業振興基本条例の推進や共同求人、そして企業づくりの取り組みも進んでいます。

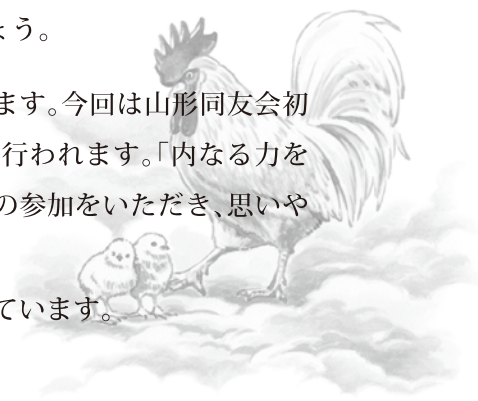
しかしながら会員数は減少傾向にあり、会員の皆様のご尽力にもかかわらず今年度はじめに掲げた500名には届いていません。年度内500名達成に向け、更なるご尽力をお願い申し上げます。

新年は、吉田敬一駒沢大学教授が三種の神器として挙げられている「同友会三つの目的」「労使見解」「経営指針」を、現在作成中の「山形同友会第3次中期ビジョン」と合わせながら学びを深め、活用して、自社経営を維持発展していく。

また、「中小企業が地域社会の主役」と自覚しながら、仕事づくり・雇用づくり・街づくりに努め、同友会の仲間を増やしながら地域の発展を図る年にしていきたいと思います。

最後に、今年も新年最初の取り組みとして「新春交流会」が開催されます。今回は山形同友会初の試みとなる全県行事の支部開催となり、庄内支部が担当し鶴岡市で行われます。「内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!」のスローガンのもと、皆様からたくさんの参加をいただき、思いや力を集結して大成功に導きましょう。

1月27日は、「新春交流会」で皆様とお会いできることを楽しみにしています。



### 天職“あゆみシューズ”

徳武産業(株)は、1957年に妻の両親が納屋にミシンを置いて、地元の産業である手袋縫製の仕事からスタートしました。しかし手袋は季節商品で仕事の量が安定せず、徳島県のスリッパメーカーに協力を得て、スリッパの製造にかかりました。



ですが仕事量の割には利益が出ず、限界を感じ地元の数社と共に興国化学工業(株)(現在のアキレス(株))の下請をはじめました。徳武産業(株)と靴とが結びついた、とても大切な時期です。興国化学工業(株)は大手メーカーで、品質、納期、コストの要求は厳しいものでしたが、あの教えが私たちに素晴らしいDNAを残していただいたとありがたく思っています。

私は1947年に農家の長男として生まれました。家は決して裕福ではなく、早く両親に楽をさせてあげたいと高校卒業後、地元の銀行に就職しました。入行して4年、仕事にも慣れた頃に母が脳内出血で倒れました。農作業や手袋縫製の無理がたたったのでしょうか、早朝に倒れた母はその日の夕方に天国に逝ってしまいました。まだ46歳の若さでした。苦勞ばかりかけ、楽をさせてやる事が出来なかった自分の不甲斐なさに、その日は一晩中泣き通しました。

我が家は女手をなくし、親や親戚から早く結婚するようにと迫られ、妻と見合い結婚をしました。妻は徳武産業(株)の創業者の長女でした。思い返せば私の天職となる“あゆみシューズ”につながったのは、自分の命を削ってまで子供たちの成長を信じた、亡き母の導きであったと感じます。銀行に6年間勤めた後、妻の伯父が経営する手袋会社に入社し、韓国での工場長を経て専務に就任。入社から9年が経ちナンバー2の仕事にも慣れてきた頃、義父から徳武産業(株)の後継者にと強い要請を受け、私はその話を受けました。1984年の春、家の引越しを満面の笑顔で義父が手伝ってくれました。その姿を見て、親孝行のまねごとができたようで嬉しかったです。しかしその20日後に元気だった父が心筋梗塞で倒れ、5日後に59歳の若さで亡くなりました。葬儀の日には、私が徳武産業(株)の社長になることが決まりました。そのとき私は37歳でした。

### 大切な人との別れが気付かせてくれたもの

伯父の会社でナンバー2を務めていましたが、ナンバー1の仕事は重みが全く違いました。そのプレッシャーを跳ね返すために、自らを奮い立たせる必要がありました。また、持前の負け

ん気の強さから早く先代を追い越したいと思いましたが、経営は思うようにいきません。社員とのトラブル、義母との軋轢、社内ではゴタゴタの毎日が2年続きました。売り上げも利益も低迷し、私は経営者としてすっかり自信を失っていました。そんな中、先代社長の3回忌の時、住職にこのことを相談しました。住職からは「お義父さんは命と引き換えに経営から身を引いた。感謝の気持を忘れたらいけない」と言われました。私は胸が詰まり、いつまでも涙が止まりませんでした。先代の突然の死で何の引き継ぎもなく社長になりましたが、思い通りにならない毎日を恨んでいました。そして自分一人だけの力で義父を追い抜き、社員に認めさせてやろうと必死になっていることに気づきました。住職の言葉で義父の命を懸けた企業承継の覚悟を知ったのです。それ以来、周囲の人たちに感謝の気持ちをもって接するようになりました。そのせいか、低迷していた会社の業績が改善しはじめました。この経験をする中で、「会社は社員やお客様、地域の人たちと励まし合い、支え合っているからこそうまくいく」と心から感じました。母の死と義父の死、偶然にも二人の大切な人との別れが、真心と感謝の大切さに気付かせてくれました。

### 苦勞の先で出会った介護シューズ

社内が落ち着いた矢先、アキレス(株)の担当者から「海外に製造工場を建設することになり、1年で1/3ずつの発注カット、4年で0になります」と告げられました。全社員を集めて事業転換の必要を伝え、旅行用スリッパ、ルームシューズなどの市場を構築しようと、OEMビジネス(他社ブランド製品製造)に挑戦しました。7、8年が経ち軌道にも乗ったある日、大口取引をしている通販会社に新提案をしたときのこと。徹夜状態で仕上げた自信作を、「徳武産業はこの程度の物しか作れないのか」と投げ返されました。一緒に行った社員の顔は涙で濡れていました。そのとき、社員にこんな辛い思いをさせるOEMビジネスに別れを告げる覚悟をしました。

次のビジネスを探していたときです、老人施設の園長を務める友人から「入居しているお年寄りが転倒しない靴を作ってくれ」と言われました。老人施設ではお年寄りがよく転倒するので、床の材質を変えるなど試行錯誤をしていましたが、原因は床でなく履物にあるとのことでした。ですがどこを探してもお年寄りの靴がないと怒りをあらわにしている友人を見て、私は自社ブランドでの介護シューズ開発を決めました。

それからは当時企画の責任者だった妻と二人で、県内の老人施設や介護病院を毎日回りました。入居しているお年寄りの足の状態は様々で、要求もニーズもバラバラでした。明る

い色の靴、軽い靴、転倒しない靴、加えて安価であること。そして想定外の要求が、右と左のサイズ違いでした。更にお年寄りの歩く姿をひたすら見続けると、新しい発見がありました。健常な足の靴は普通の状態なのですが、反対の靴は擦り切れてポロポロでした。これを見たときに片方だけを販売しようと思えました。

私は約2年間、約500人の方にモニタリングをお願いしました。その頃、弁理士に商標や特許、実用新案の相談をしていました。その弁理士は「右左サイズ違いの販売と片方販売は、ビジネスモデルとして特許を取れる」と勧めてくれました。私は悩みましたが、この事業が将来成長したときに同業他社が参入できない。参入しても左右サイズ違い販売、片方販売ができず、その会社や利用者が困ると感じ「すいません、やめます」と答えました。現在介護シューズ業界では15社が競合しています。大手企業は靴業界の非常識だった、右左サイズ違い販売・片方販売もやっています。弁理士さんに特許の取得を勧められたときに、「損得」でなく「善悪」で判断したことを今でも誇りに思っています。

### おばあさんの夢を叶えたピンクの靴

数年前に近隣の老人施設から、厳しい剣幕で抗議の電話がきました。「徳武産業は歩けない人に靴を売るのが」と言うのです。その施設に飛んで行くと、車椅子に乗った90歳位のおばあさんがピンクの靴を大事そうに抱えていました。その方はもう3年も歩いていないということでした。おばあさんに事情を聞いたところ、「同じ施設にピンクの靴を履いて歩いている人がいて、私ももう一度歩いてみたいと思ったの。そうしたら靴が私に『私を履いて一緒に歩こう』って話しかけてきたの。だからピンクの靴を買ったのよ」とのことでした。施設の方も理解してくれました。それから7、8ヵ月経った頃、その施設の責任者から興奮気味に「おばあさんが立てた、歩けた」と連絡が入り、私たちは直ぐ駆けつけました。するとおばあさんは間違いなく立てていました。シルバーカーに掴まってはいましたが、一步一步、前へと進んでいました。おばあさんは満面の笑顔で「神様に死ぬ前にピンクの靴で歩かせてくださいと、毎日お願いしたの。そうしたら、歩けるようになったのよ」と話すおばあさんの頬に涙がつかいました。この仕事をして本当に良かったと思えた瞬間でした。施設で暮らすお年寄りにとって、靴は単なる履物ではありません。歩くことを通じて人や自然とのふれあい、生きがいを取り戻す大切な道具です。ピンクの靴の奇跡、こんなドラマを日本中に広げることが私たちの使命であると思い、日々真剣に経営を行っています。

### 地域に認めてもらえる会社を目指して

徳武産業(株)は田んぼの真ん中に会社があります。16、7年前のこと、この日は夜10時を過ぎてもまだ仕事をしていました。突然、隣の田んぼの持ち主が怒鳴り込んできました。「夜遅くまで電気をつけているから、稲が育たないじゃないか」とい

うのです。私は地域との共生をしっかりとやるべきだと、このときに気づきました。それから毎朝、社員全員が30~40分早く出社し近隣や自治会の会館、特別養護老人ホーム、老健施設の掃除をしています。また、地元の小中学校への寄付やトイレの貸し出し。排気ガスを田んぼにかけない駐車に取り組んでいます。地域との共生、その原点は「企業は地域に迷惑をかけている」がスタートになり、反省と共にささやかな償いをさせていただいています。そして、「あの会社はこの地域の自慢だ」「私たちの誇りだ」「私たちも応援するよ」と言ってくれることを目標にして日々努力しています。

37歳の時に社長に就任し、以来31年間経営を続け、あゆみシューズの販売も念願の1000万足に達成しました。本当に社員と喜びを分かち合いました。今では年間に約130万足を販売しています。しかし私は、あのときのことを片時も忘れていません。1995年5月、あゆみシューズを発売開始しましたが思うように売れず苦悩の連続が続いていたときです。徳武産業(株)を支えていたルームシューズ、旅行用スリッパ・ファッションポーチの担当者から、大手通販会社のカタログが大幅にページカットされるとの連絡が入りました。結局その期は前年度比30%強のダウン。会社を引き継いで初めての赤字になり、ボーナスは寸志、昇給はストップ、社内には暗い空気が漂い将来を託していた若手の社員が次々と辞めていきました。銀行に資金不足を訴えても、冷たい態度です。キリキリと込み上げる胃の痛みを抑えながら、妻と二人で夜遅くまで対応に追われ、会社を立て直す為に寝る時間を削りかねない状況でした。その後なんとか業績は回復しましたが、経営者としては反省する事ばかりでした。売り上げの40%以上を1社に依存、社員に仕事を丸投げ、新商品開発しか見てなかった毎日。会社の隅々に問題を抱え、ゴミやホコリが溜まるのさえ気づきませんでした。この赤字は私にとっていい薬になりました。きついお仕置きをしてくれた神様に、今では本当に心から感謝をしています。

### 経営指針はバイブル

私は今から28年前に中小企業家同友会に、友人に誘われ入会しました。そしてすぐ指針書を作る会に入り、経営計画の立て方をイロハから学びました。その時のお手本が福岡の(株)やすやの矢頭先代社長でした。苦勞して作った経営指針は銀行からお墨付きをいただきましたし、毎年全社員、全取引銀行の支店長と担当者を一堂に会して経営指針書の発表会をしています。発表会では社長はじめ幹部、社員、パートまでが自分の言葉で、自分の決意をしっかりと語って発表しています。重要な行事であります。現在、経営指針書は徳武産業(株)の使命を全うする為の経営のバイブルとなっています。

中小企業家同友会に入会したことで多くの学び、仲間との出会いがありました。経営者としての原点は、同友会に入会したあの日からスタートしたと確信しております。すべてのご縁に感謝しています。

中同協第5回人を生かす経営全国交流会in千葉

# 人を生かす企業が地域の未来をひらく ～10年ビジョンを持ち、「労使見解」の実践を～



11月17～18日、千葉県千葉市東京ベイ幕張に於いて、第5回人を生かす経営全国交流会in千葉が、「人を生かす企業が地域の未来をひらく～10年ビジョンを持ち、『労使見解』の実践を～」のスローガンで開催されました。

1日目は全体会・パネルディスカッション・グループ討論・懇親交流会、2日目は全体会・問題提起・グループ討論がこなわれました。山形同友会からは6名が参加しました。参加された方々より報告が届きましたのでご紹介いたします。

## 第5回人を生かす経営全国交流会in千葉 参加報告

田宮印刷株式会社 阿部和人氏



11月17日～18日と行なわれた人を生かす経営全国交流会では、まず「人を生かす経営」の実践を進めるパネルディスカッションから始まりました。パネリストは鋤柄中同協会長、広浜中同協幹事長、加藤中同協人を生かす経営推進協議会代表、コーディネーターに中山中同協経営労働委員長が務めました。

パネルディスカッションからは「労使見解」を基本とし、経営実務において実践し、労使見解が反映された指針書を社員と共に作成すること、全ての人がある良さを発揮できる社員共育の推進、計画的・戦略的定期採用をしていくという一連の流れを切らさず経営していくことが大切だと感じました。そしてその実践課程においては企業変革支援プログラムⅠ・Ⅱを効果的に使うこともポイントだと感じました。またその側面には障害者問題があり、自社の経営について深く考えさせられる機会となりました。

その後のグループ討論では①「人を生かす経営」とは何ですか？②企業、同友会として実践をどう進めますか？というテーマで討論しました。①では「企業経営のあらゆる部分に労使見解が活かされているか」「危機的状況の時に

経営者の責任として労使見解を貫く事ができるか」など討論しました。②については実践の核となるのは専門委員会であり、専門委員会は新会員から増やす事が重要だという意見があり大変参考となりました。支部は仲間作り～学び、委員会は学び～実践と、支部活動・例会・委員会活動と整理してその意味合いを明確にする事が大切だと感じました。また山形同友会において人を生かす経営の実践を強く推進する為には委員会の連携が必要だと感じましたが、「障害者問題についてどう推進すれば良いのか」という課題も見えました。

2日目は「労使見解の歴史から今日的意義を学ぶ」と題し、田山中同協顧問が、「私達の経営に労使見解を生かすために」の題で梶谷中同協社員教育委員長から問題提起がなされました。

労使見解の歴史に学び、今日の実践をどう推進していくのかという問題提起から「社員の多様な価値観を受け入れる」「愛されたい・認められたい・必要とされたい・褒められたいという人間の基本的欲求を組織運営の中に活かす事が大切」「業務は法令の遵守と労働者の権利を侵さない」「人を生かすとは企業活動のみならず社会活動である」ということがこれからの企業づくりに重要であると学びました。その後「労使見解を実践するとはどういうことですか」というテーマでグループ討論をしました。討論では「経営指針・採用・教育・障害者雇用の一体の発展」「就業規則をはじめとする諸規定の整備」「やりがい・働きがいをどう作るか」「人を生かす経営と地域とのかかわり」について討論。労使見解の重要性を再認識し、実践に

向けてどう展開していけば良いかの課題「社員の声をどう拾い、経営に活かすか」が見つかりました。

この2日間では終始「労使見解」の深い学びがあり、私に

とって有意義なものとなりました。幾つかの課題を見つけることが出来ましたので、課題解決を推進して行きたいと思いました。

## 第5回人を生かす経営全国交流会in千葉に参加して 株式会社カーサービス山形 小川大輔氏



1日目はパネルディスカッションとして、テーマに基づいた「人を生かす経営の実践」の報告でした。鋤柄中同協会長はわかりやすいゴールを設定し、届く可能性の高い目標を立ててPDC Aのまわりの仕組みを作ること。広浜中同協幹事長は、①関わる経営者の責任②真の社員教育③人が育つ人事管理制度の3つの実践を報告しました。特に③では、年間52週ごとの課題を社員自身が決めてPDC Aを廻し、毎週マネージャーとの面談を実践している。なかなかできる取り組みではないが、それだけ管理職が社員と関わることの重要性を改めて感じました。

加藤中同協人を生かす経営推進協議会代表からは、「会社の利益の為の社員教育になっていないか、もう一度考えてほしい」との問題提起がありました。自己啓発はやりたくてやるのが当たり前、やりたくないものを会社が強要しては学びにならない。育つ風土を会社が作ることで自分の存在価値がわかるようになる。特に新入社員に教えることで教える側が学び成長することを学びました。

グループ討論では「人を生かす経営とはなんですか？」をテーマに話し合いました。我々のグループは、「適材適所」や「人を生かす」で本当にいいのか？の切り口で始めました。「適材適所」については、人の特性を見極めることが先で、人が伸びる仕組みを作ることが大事だとの意見が出ました。また「人を生かす経営で本当にいいのか？」では、グループの松井中同協専務幹事が生きる為に生かす場所を提供するのが同友会経営者の責任であると提起しました。その後人間尊重の教育について話し合い、様々な部署で経験することは自分が生きる部署を見つけることや仕事に誇りが持てるようになること。失敗は個人の責任で

はなく会社の責任という認識を経営者は伝えなくてはならないなどの討論が深まりました。

2日目は田山中同協顧問が、「『労使見解』の歴史から今日的意義を学ぶ」と問題提起しました。日本国憲法第11条、13条、25条、28条に労使見解のベースがある。会社は経営者のものではなく公のもの。労使関係がうまくいかいかないかは経営者の姿勢次第。労働者が立ち止まったら企業の成長も止まる、だから企業は労働環境の整備、就業規則や退職規定、就労条件をしっかりと考え、労働者の働きやすい環境を作らなくてはならない。と述べました。

また、梶谷中同協社員教育委員長も「私たちの経営に『労使見解』を生かすために」と提起。労働者の全機能を発揮してもらうには、正しい労使関係を築くことが大事である。信頼できるパートナーとは理念の共有で対等な労使関係になりえる。目指すところが明確になっていることが大前提で多様性をどう生かして行くのか、現在労使見解の実践が求められている。また、社員が地域社会を作っていることを認識することが大切。親が子を教育するのは当たり前、ではその親に教育しているのは企業ではないのか？社員とどう関わるのかは企業の大事な役割であり、社会改善運動の一役を担っていることを社員と共に理解せねばならないと述べました。

グループ討論では、社長が考える理念や方針では社員が動ききれない。もっと自発性を発揮できる環境を作らなくては労使見解の実践はできない。お互いに尊重できる「職場」作り。人が生きる場を作る人間尊重の経営を、社員の為、自分の為にしていかななくてはならないなど話し合われました。

感想として、会社経営もそうですが、人として社員とどう関わるのかを深く感じました。自社、自分に置き換えるとまだまだ足りないことだらけで、沢山の学びを得ることができました。労使見解の歴史、これまでの同友会経営者の学びや実践など、先人の方々の苦労があって今の同友会活動、同友会運動がある。我々はその先人が作ってきたものを、ブラッシュアップして未来につなげていかなければならない大きな役目があることを実感しました。

山形県中小企業家同友会

# 2017 新春交流会

沈潜の風ちん せん ～内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!～  
ふう

開催日 2017年 **1月27日(金)** 受付 15:00

第1部 記念講演 15:30～ 第2部 懇親会19:00～  
グループ討論 17:00～

会場 **東京第一ホテル鶴岡** 山形県鶴岡市錦町2-10 TEL.0235-24-7611

参加費 **第1部 2,000円 第2部 5,000円**

## ■ 実行委員長の挨拶 2017新春交流会実行委員長 佐藤 知志

平素は、同友会活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
さて、2017年1月27日(金)に“新春交流会”を、「沈潜の風 ～内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!～」をスローガンに、全県行事としては初の支部開催で庄内支部主管のもと鶴岡市で開催致します。



佐藤知志実行委員長

沈潜の風とは、常には静かに地道に力を養い、いざという時にそれを大いに発揮するという意味で、明治の政治家であり漢学者でもあった副島種臣(そえじまたねおみ)が庄内人の気質を評したものです。

記念講演では、「夢・挑戦・誇り ～フロンティア精神のその先は～」と題し、井上農場 代表 井上馨氏よりお話しいただきます。井上氏は農業の未来のため独自の販路を開拓し、数々の賞を受賞して「井上農場」ブランドを築いてきました。夢は、胸を張れる農業を広げること。「農業は1人ではできない、周りの農家と一緒によくならないと未来はない」と、お米の価値の再認識につなげる商品開発にも取り組んでいます。最初は農業が嫌いだったと語る井上氏の、人生をかけた地域愛・家族愛あふれる挑戦から、先の見えない時代を中小企業家として生きる力の源を考える機会にしたいと思います。

この度は、庄内支部メンバーが実行委員会の主体となり、「庄内らしさ」をキーワードに“おもてなし”をしようと考え準備を進めております。1月下旬は、ちょうど旬である「寒だら」の時期でもあります。庄内の地酒と共に、脂ののった寒だらを堪能していただきながら、経営について大いに語りあえたらと思います。

また今回は、各支部の活性化を図るよいチャンスであると捉えています。例会には参加されるものの、入会には至らないゲストの方など、今回の開催を機に地元の中小企業家に声掛けをいただき、同友会の良さをアピールし、増強につなげられたらと考えています。

年始めの何かとご多用のことと存じますが、初の庄内開催を盛会になるよう、実行委員会一同、皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。ぜひよろしく願いいたします。

**申込締切:2017年1月20日(金)**

※お申し込みはe.doyuもしくは申込チラシにてお願いいたします。

# 第8回理事会報告

◆日時:2016年12月14日(水)午後3時～午後5時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:齋藤専務理事  
◆出席者(敬称略):川合、西塔、越前屋、齋藤(志)、菊池、阿部(和)、玉津、若木、佐藤(知)、斉加、斎藤(源) 事務局 矢作、高橋

## ■開会挨拶(西塔代表理事)

西塔代表理事が「今年最後の理事会です。皆さん、経営計画を立て実行していると思いますが、振り返ってどうだったか、山形同友会の有り方も含めてどうだったか検討の必要があると思います。新春交流会は初めて全県行事を支部設置で行います。庄内支部が初めてです。実行委員長の佐藤さんは山形支部の忘年会にも参加し、頑張っていたと思います。今日の理事会が新春交流会を成功させるという場になってもらいたい」と述べました。

## ■経営体験報告

- 報告:關オネット 常務取締役 斎藤源氏(2013年入会)  
\*次回報告者(敬称略):川合勝芳氏

## ■報告事項

### 1) 中同協・第2回幹事会(11/11)

中同協の広浜幹事長より同友会運動と自社経営は不離一体を徹底させる為、全ての会合の冒頭の挨拶に経営報告を必ずとり入れるとお話がありました。また、全研(中小企業問題全国研究会)が来年2月16～17日鹿鹿島であり、参加の呼びかけがありました。全研の考え方で、最近各地同友会が開催する経営研究会などと差が無くなったとの指摘があり、これからは中小企業問題を研究するという原点に立ち返り研究者や専門家などに協力をいただき客観的な視点も交えて学び合うという形に変わります。定時総会は来年7月6日～7日愛知で行わう予定で各地より代議員を出す形となります。(西塔代表理事)

### 2) 第5回人を生かす経営全国交流会(11/17～18)

人を生かす経営の実践という事で幅が広く、難しかったという感じを受けた。経営指針をつくり採用活動をして障害者雇用に取り組む経営が人を生かす経営のイメージですが、話を絞り込むと「社員の声を拾っているか」ということです。地の果てまで拾っていますか、それが経営指針に反映するのか、一番優秀ではない社員についてはどうなのかという難しい問題も出ました。その中で取り組む課題がいくつか見えて今後の成果になるという会でした。東北の参加人数が少なかった。全国行事は是非参加してもらいたい。(阿部(和)理事)

### 3) 東京同友会4委員会合同会議(11/18)

東京同友の経営労働、共同求人、社員共育、障害者委員会の4つの委員会の合同会議でした。今までのバラバラな活動からお互いを知るという事で、どう連携すればいいのか模索しながら人を生かす経営に向かって課題を盛り込んでいこうという形で、いろいろ話聞いて良かった。山形でもまだ委員会の連携がほとんど無く、今後取り組みればと思います。(阿部(和)理事)

### 4) 2016年全国事務局長会議(12/8～9)

同友会運動の継承と今後の展望を考えると大きな課題だった。1日目は2回友会の実践報告と事務局長のありたい姿の問題提起が行われた後、各地の実践を交流した。2日目は京都大学の岡田先生が災害とグローバルリズム時代で被災地の復興状況から今の社会情勢を地域から考えていくこと、グローバルに考えること、新たな社会的価値を重視する時代が来ていると講義。同友会に対する期待が高く、自分達が地域の担い手ということを強く感じてきた。(矢作事務局長)

### 5) 山形財務局との意見交換会(11/11)

金融機関に対する指導が変わってきた。金融機関が企業にお金を貸し付ける際、資産内容の精査が主だった。赤字の場合は資産査定で評価していたが、ベンチマークというものをつくり、金融機関は地元の本来支援をどれくらいやっているかが金融機関に対する評価、指針といっています。具体的には担保主義、保証協会主義、保証人主義が改善されているかということで、今は第3者保証が無くなり、金融公庫では会社保証という動きです。あとプロパー融資がどの程度出来るかということです。(齋藤専務理事)

### 6) 第13回経営研究会

齋藤(源)理事より下記の参加者数の報告とお礼が述べられました。

(カッコ内は参加登録者数)

支部	目標数	会員	会員企業	ゲスト	合計	達成率
山形	120	67(70)	33(34)	19(19)	119(123)	99.2(102.5)%
寒河江	30	12(12)	3(3)		15(15)	50.0(50.0)%
さくらんぼ	25	13(13)	4(4)	1(1)	18(18)	72.0(72.0)%
置賜	25	17(17)	6(6)	2(4)	25(27)	100.0(108.0)%
庄内	15	13(14)	3(3)		16(17)	106.7(113.3)%
新庄最上	5	5(5)			5(5)	100.0(100.0)%
情報産業協会	10			10(10)	10(10)	100.0(100.0)%
ゲスト				22(24)	22(24)	
合計	230	127(131)	49(50)	54(58)	230(239)	100.0(103.9)%

来賓:17名参加

\*12/20に第6回実行委員会を開催し、1月理事会にまとめと収支を報告します。

### 7) 2016年度11月月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 入会者1名 退会者6名 12月14日現在420名

## ■討議事項

### 議題1:新春交流会について

佐藤理事が、各支部の12月例会に参加してPR活動を行っていること、各支

部の実行委員より参加呼びかけと当日の受付担当していただくこと、参加者の集約については1月6日50%、1月13日80%、1月20日の最終集約で130名という目安で取り組んでいくことが報告された後、12月14日現在30名という参加申込状況を確認し、参加呼びかけの協力依頼がありました。そして、グループ討論スキルアップ勉強会について提案され、承認されました。

### 【グループ討論スキルアップ勉強会】

●日時:1月17日(火)18:00～ ●会場:山形ビッグウイング

### 議題2:新庄市の中小企業振興条例の制定に向けて

越前屋副代表理事より新庄市の中小企業振興条例の制定に向けて、実態調査のアンケートを実施するにあたり、会員数が少ないために他団体へ協力を依頼することが提案され承認された。

### 議題3:委員会より

#### 1) 共同求人委員会より

玉津理事より2018年卒業生を対象とした共同求人活動は30社の参加を目標として1/23学校の就職担当との懇談会・就職情報誌の作成・学校訪問・3/23春の合同企業説明会を予定している。学生には中小企業の魅力と同友会の魅力を伝え、行政にも協力を依頼しながら活動していく。企業が多いほど学生も参加するので、ぜひ参加いただきたいと語りました。

#### 2) 経営指針・社員共育合同例会

阿部理事より経営指針委員会と社員共育委員会による合同例会を下記の要項で開催することが提案され、承認されました。

●日時:2月7日(火)17:00～20:00 ●会場:山形ビッグウイング

●参加者:経営指針委員会、社員共育委員会メンバーのみとする

### 議題4:他団体からの申し入れ

- 1) 山形県商工労働観光部雇用対策課より依頼があった「オールやまがた若者定着推進会議」の構成メンバーになることが決まりました。
- 2) 中小企業基盤整備機構「よろず支援拠点全国本部」より広報と活用促進についての依頼と提案があり、各支部幹事会や会員にお知らせしていくことが決まりました。
- 3) 東経連ビジネスセンターより2月に山形で開かれる東経連ビジネスセンターの「支援事業説明会」への後援依頼があり、承認されました。

### 議題5:事務局賞与について

事務局の冬季賞与の支給が提案され、承認されました。

## ■その他

### 1) 今後の行事予定

中同協・第3回幹事会	1月13日(金)～14日(土) 東京
エネルギーまちづくり紫波町ツアー	2月13日(月)～14日(火) 岩手
第47回中小企業全国問題研究会	2月16日(木)～17日(金) 鹿児島
合同入社式・新入社員研修	4月6日(木)9:00山形ビッグウイング

### 2) 第9回理事会日程

●日時:1月11日(水)午後3時～午後5時

●会場:山形県産業創造支援センター

## ■開会挨拶(越前屋副代表理事)

## 新会員紹介

まきのひとみ  
◎間木野 仁美氏

大同生命保険㈱  
エグゼクティブ・ダイドウ・  
ファイナンシャル・プランナー  
山形支部

### 会員名変更

- (株)ミナミ電子 代表取締役 加藤 孝氏  
かとう まさのり  
⇒加工部 部長 加藤正謹氏 (置賜支部)

### 役職変更

- 有桂林 取締役専務 蜂谷修一氏(山形支部)  
⇒代表取締役社長に変更
- 晃永運輸㈱  
統括運行管理者 野口雅弘氏(山形支部)  
⇒代表取締役に変更

同友やまがた1月号(2017年1月1日発行/通巻286号)

From Editor



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp